

# 会 議 要 旨

1 会 議 名 第二期北九州市人権施策審議会 第1回会議

2 議 題 (1) 今後の会議の進め方について  
(2) 本市の人権施策の推進状況  
(3) その他

3 開催日時 平成19年2月2日(金)  
15時00分 ~ 17時15分

4 開催場所 北九州市役所2階 特別会議室B

5 出席した者の氏名

(委員) 稲積謙次郎会長

ほか、委員全員出席

計13人

(事務局) 北九州市長、保健福祉局長

ほか事務局関係者7人

計 9人

6 議題、議事の概要

(1) 辞令書交付

(2) 市長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 会長・副会長選出

会長に稲積謙次郎委員、副会長に平田トシ子委員が選出された。

(5) 会長・副会長挨拶

(6) 議事

ア 今後の会議の進め方について

事務局が今後の審議の進め方やスケジュール、会議の公開について説明した。

委員の総意により「本会議は原則公開とし、今後の審議の過程においてプライバシーに関わる個別・具体的な事項等を審議する場合には、その都度、判断していく」こととなった。

イ 本市の人権施策の推進状況

事務局から「北九州市人権行政指針」を踏まえた取組の進捗状況について報告した。

## ウ その他

事務局報告について、第2回会議において審議を行うこととした。

### 次回審議に向けた委員の主な発言

- ・ 人権を大事にしているという施策を進めることによって例えば少年犯罪が減ったとしたならば、その施策は有効であると捉えるのかどうか、「人権文化のまちづくり」の実現に向けた個別の施策等が市全体として捉えたときにどのような意味があったのか、それを測るためにどのような物指しが必要なのか、どのように評価していくのか疑問を感じた。
- ・ 次代を担う子どもたちに人権を尊重した心を育むために必要なものとして「ふれあい」というのが第一期の審議会におけるキーワードだったと思う。事務局からの説明にあった人権研修や学習の中に「ふれあい」というキーワードが見えない。例えば40分の授業時間でのブラインドウォークや手話の体験では真の理解にはつながらない。2、3時間のふれあいの中で、見えないことが怖いということだけでなく、見えないことによってどのような手助けや支援が必要だということがわかってくる。最近は民間企業にそのような取組が見受けられるようになったが、市にもそのような事業を予算化してもらいたい。
- ・ 施策の評価には様々な物差しがあると思う。モニターによるものや行政当局が現場の意見を踏まえて施策を進め、その中で市民と接することで得るものによる自己点検もあるだろう。それら行政の様々な指標に基づく点検結果に対して、審議会が第三者の目で、また、各委員それぞれの専門的な視点で、自分の立場から自分の現場からの自由な評価をすればよいのではないか。必ずしも一つの物差しで統一される必要はないと思う。審議会が厳格に点数をつけるというものではないと思う。

## 7 問い合わせ先

保健福祉局人権推進センター人権文化推進課企画調整係  
電話番号(512-5001)